

活動終了報告書（要約）

採択年度	2025 年度
コード番号	25-S-003

団体名	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	申請額
		2,000,000円
		助成額(受領額)
		2,000,000円
事業名	(現地・現場での活動との連携を基にした) 調査研究・政策提言活動の基盤強化事業	事業地(国名)
		日本

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 ＊300字以内

1979年以降の、インドシナ難民、特にカンボジアからの難民が激増する中で、主にタイ（および東南アジア、日本）での難民救援活動や、タイの都市スラム、農村開発を目指して設立されました。趣旨・目的としては、政治的な中立を守りながら、戦争の被害者である難民、国内避難民、被災者の人命・人権を守るために、人道支援を行うこと、および停戦・平和への提言を行うこと。難民を出している側にも人道復興支援を行い、難民を出さないための復興に協力すること。

■ 今回実施した活動の概要) ＊400字以内

JVCとともにパレスチナ・東エルサレムでJVCとともに支援活動を行う現地NGO「シルワン・アットゥーリ女性センター（以下、AWC）」事務局長のアビール・ザイヤード氏を日本に招聘。東エルサレムの現状や現地の女性たちを取りまく諸問題について現地の生の声を届けました。

また、通年を通してパレスチナ事業チームと協働しながら、声明発出や議員への働きかけ、一般向けのイベント開催などパレスチナに関わるアドボカシーに取り組みました。

■ 成果 ＊400字以内

アビール氏登壇の対面イベント6件を東京・神奈川・広島で開催。そのほか、YouTube配信番組などでの発信および複数のメディアの取材に対応。朝日新聞の天声人語にも取り上げられました。

通年のパレスチナアドボカシーでは、パレスチナの現状への理解・関心を高め平和へのアクションを求めるNGO共同声明の発出やキャンドルアクションイベント等を行いました。

＊記載者へのお願い：本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい（全体で1100字以内程）。

コード No. 25 - S - 003

(現地・現場での活動との連携を基にした) 調査研究・政策提言活動の基盤強化事業

2025年度活動報告

日本国際ボランティアセンター (JVC)

◆ 活動の目的

パレスチナにおける占領や、表現・文化活動への抑圧の現状を、当事者の声を通じて直接日本社会に伝えることで、市民の理解を深めるとともに、パレスチナにおける人道状況について自分ごととして考える機会をつくることを目的として実施しました。

◆ 活動内容

【アビール・ザイヤード氏招聘】

● 招聘者

JVCとともにパレスチナ・東エルサレムで女性に対して支援活動を行う現地NGO「シルワン・アットゥーリ女性センター（以下、AWC）」 事務局長のアビール・ザイヤード氏。

参考：JVC会報誌記事「厳しい社会の中で 力強く生きる パレスチナの女性たち」
(ファイル「JVC会報誌（2023年春号）記事.pdf」)

● スケジュール

2026/2/7(土)	日本到着
2026/2/8(日)	・映画『フィダーイー・フィルム』上映&監督アフタートーク@鶯谷参加
2026/2/9(月)	・JVC公式SNS掲載用インタビュー動画撮影（これから公開予定） ・午後は横浜にて、パレスチナ事業ドナーであり、女性を中心に、地域に根付いた国際・平和について活動を行う特定非営利活動法人WE21ジャパンでの講演会に参加。
2026/2/10(火)	・広島に移動 ・翌日の講演会を主催する広島パレスチナともしび連帯共同体の案内で、平和記念公園や広島平和記念資料館などを視察。 ・日本原水爆被害者団体協議会(被団協)との面会実施
2026/2/11(水)	・講演会「占領下エルサレムで生きるパレスチナ女性 日常のたたかい」を広島市内（おりづるタワー）にて登壇

	・講演後、広島パレスチナともしび連帯共が行うビジル（原爆ドームの前で行うガザ攻撃被害者への追悼集会）に参加 ・帰京
2026/2/12(木)	・朝日新聞社からの取材対応（天声人語への掲載） ・YouTube配信番組「月刊JVC」公開収録&支援者交流イベント出席
2026/2/14(土)	・イベント「旧市街に住むパレスチナ人が語る エルサレムの歴史と文化&アラビア語カフェ」参加@東京ジャーミィ・トルコ文化センター ・ふえみん婦人民主クラブからの取材対応 ・アイヌ料理店「ハルコロ」訪問（2/15シンポジウムに登壇する宇佐照代氏との顔合わせ）
2026/2/15(日)	・シンポジウム「植民地主義下の女性の生とたたかい：エルサレム、アイヌモシリ、東京」登壇@東京大学駒場キャンパス 日本出国

2025年7月～2026年6月の期間において、JVC調査研究・政策提言チームは、アビール氏招聘の活動以外にもパレスチナ事業チームと協働しながら、主に下記のようなアドボカシーに取り組みました。

【パレスチナアドボカシー】

2025年7月～2026年6月の期間において、JVC調査研究・政策提言チームは、アビール氏招聘の活動以外にもパレスチナ事業チームと協働しながら、下記のようなアドボカシーに取り組みました。

●2025/9/29&10/4 NGO共同声明「停戦を、食料を、今すぐに」の発出およびキャンドルアクション



ガザの未曾有の人道危機が始まって2年が経過する節目に改めての停戦を求めるため、2025年9月29日に日本のNGO12団体共同で声明文を発出。

10月4日には、東京・[日本聖公会東京教区聖アンデレ教会](#)にて、現地の人々の状況を改めてお伝えする報告会、その後、大本山増上寺にて犠牲者の追悼と停戦への願いを込めたキャンドルアクションを実施しました。

また、開催にあたり、Instagramでの他団体との共同投稿など、拡散にも努めました。

参考：共同声明・キャンドルアクション詳細

https://www.ngo-jvc.net/activity/advocacy/20250929_gazastatement.html

他団体との共同投稿

https://www.instagram.com/p/DPGZEYpEadd/?img_index=1

◆活動の成果

アビール氏招聘においては、東京・神奈川・広島での対面イベント6件、YouTube配信番組収録などでの発信および複数のメディアの取材に対応するなど、東エルサレムの現状や現地の女性たちを取りまく諸問題について精力的に発信を実施することができました。

上記以外にもJVCスタッフ・インターンや有志ボランティアとの交流なども行いました。

パレスチナアドボカシーでは、声明やキャンドルアクションの様子が複数メディアで報じられるなど、日本社会において一定の広がりをもたすことができました。

◆今後の課題

イベント・メディアなど様々な形で日本社会での関心喚起や日本政府への働きかけなどを行い、一定の広がりをもたしたものの、パレスチナ現地の状況もガザでの停戦後も攻撃や人道支援への制限がつづくなど、残念ながら現地の状況は改善に向かっていません。

現地の人々の命・尊厳を奪う事態を少しでも食い止め、状況を変えていくために、現地での支援活動とともに、アドボカシーによって社会から変えていくことが引き続き求められています。